

2025年度第1回日本学連幹事会議事録

【日程】2025年6月28日(土) 17:00 ~ 20:15

【開催場所】ペンションBell zoomを用いたオンライン併用

【議事録作成者】西澤汰知(東北大学)、石井雅人(東北大学)、早川正真(立命館大学)

【目次】

1.事業者との契約について.....	3
2.地図売り上げ報告等.....	3
3.日本学連HPの改修について.....	5
4. 下絵地図&サンプルコースの公開について.....	6
5.栃木テレイン(旧図)の公開について.....	6
6.インカレ地区学連枠配分数の継続的な周知について.....	7
7.インカレ実行委員会でのOCADライセンス購入について.....	7
8.地区学連のUNIVAS整備について.....	8
9.補完点が導入された場合のインカレ枠配分への影響について.....	8
10.講習会について.....	9
11.後援した大会の要項の収集と、要項・報告書の活用について.....	9
12.部局報告.....	10

2025年度第1回日本学連幹事会議事録

出席者(敬称略)

氏名	役職	学校名
石川翔太	幹事長	東京大学
森創之介	副幹事長	横浜国立大学
岩崎壮馬	会計監査	大阪大学
森尾尚生	会計監査	名古屋大学
加藤賢斗	事業部長	筑波大学
高橋悠	事業部員	横浜市立大学
湊奈々子	普及部長	茨城大学
小河凜太郎	普及部員	大阪公立大学
齊藤滉太	普及部員	早稲田大学
西澤汰知	広報部長	東北大学
早川正真	広報部員	立命館大学
石井雅人	広報部員	東北大学
佐藤若葉	渉外部長	東北大学
林希華	渉外部員	日本女子
川瀬智尋	事務局員	奈良女子大学
久島典子	事務局員	京都
屋敷龍吾	技術委員会	京都大学
美濃部遼	関東学連幹事長	筑波大学
祝部大旗	北信越学連幹事長	新潟大学
柿本源心	関西学連幹事長	京都大学
井上風大	中九四学連幹事長	広島大学
木村佳司	理事	山口大学卒
浴本悠貴	理事	神戸大学卒
根岸健仁	理事	一橋大学卒
坂野翔哉	業務委託者	

1.事業者との契約について(根岸)

概要

新しく結びたい契約として以下の2つがある。

①坂野さんとの日本学連の住所利用の委託契約(年額5万円)

②YMOE社との倉庫の賃貸借契約(年額20万円)

20万円を下る契約の承認は幹事会の承認が、20万円を超える契約の承認は総会の承認が必要である。

要点としては

① 日本学連の事務局所在地を山川さんから坂野さんに移行する。また、郵便物等は転送していただく。

質問

坂野:郵便物はどれくらい来るのか

根岸:頻度は多くはない

坂野:銀行口座の住所も坂野の住所になる。この時、犯罪等に巻き込まれる危険性が発生する。地区学連の運用と同様に、日本学連の会計担当の住所にすればよいのではないのか。

議決

満場一致で決議

② 倉庫の一部を借り受け、契約解除の際は現状復帰である。

質問

浴本:20万円に設定した根拠はなにか。

根岸:山川さんの業務を分割した際だいたい20万円程度となる。また、倉庫の固定資産税はかかるので、20万円という価格設定とした。

坂野:資材の目録等は誰が管理するのか。

根岸:日学とYMOEの資材の区分が曖昧な部分がある。何の資材があるかの把握より、誰の所有物とするかの判断が難しい。そのため、詳細な目録は管理しない。場所の目安は存在するため、基本的には利用者がそれにのっとって管理してもらう。

坂野:基本的には各利用者が取り出した場所に使用後に戻すという形で運用するしかない。利用者が多く、毎年変わるため、目録を作ったり収納場所を記録したりして改善していきたい。

2.地図売り上げ報告等(坂野)

地図の売上報告

地図管理に関する管理業務委託契約書「地図に関する調製(レイアウト・色彩・レイヤー設定等)、印刷及び販売業務を行うにあたり、これを適正かつ確実に行うための業務」

第5条:幹事会にて、地図管理業務の実績について報告しなければならない。報告の内容には、販売地図名、販売枚数、販売額、販売先、地図使用日、売上総額を必ず含めなければならない。また、この報告は年度中間期と年度最終の幹事会・総会で行う。

2024年度地図印刷はA4サイズ換算で6,427枚、2,594,800円。そのうち学連版權の金額が

2025年度第1回日本学連幹事会議事録

1,615,500円となる。業務委託契約請求が令和6年分110万円と令和7年分132万円の請求と差し引いて、804,500円を日本学連からの支払い受領済みである。

地図修正の報告

栃木県の地図修正に関する業務委託契約書「オリエンテーリング用地図を現状に即して修正する業務」について、令和6年度地図修正予算25万円の用途について説明する。

・倉掛湧水池

早大OCの小池が2024年春からYMOEのもと着手していたやりのこし分を委託し完了。1/4開催の学連合宿でお披露目。合会エリアを除いた西半分のうち特に変化があった部分について。2人で日4万円。

・塩谷熊ノ木

上記と合わせて小池に委託。2025/1/5開催の関東リレーでお披露目。星ふる学校エリアを除いた南側。5人で日10万円。

・日光毘沙門山

インカレ実行委員会が宮西氏へ委託したモデイベだけの範囲では今後レースを開催するには狭いと私が判断し、モデイベ範囲外についても実行委員会予算外で宮西さんに委託。2日7.4万円。委託範囲外に散在する特徴物を坂野が修正、1日3.3万円。2025/2/15公開。

消費税や私の手間賃を考えたらず算を超過。しかし公開イベントに合わせて修正後最新のテレインを使わせてもらった。YMOE時代もそんな運用だった様子である。令和7年度も以上のように引き続きやっていきたい。

提言

今後は新規テレインの開拓よりも、地図修正に予算を使っていく方針になると思う。関東学連セレなど、予算や参加者が多い人数において地図修正を行う際、どうしても実行委員会予算だけでは修正がセレに必要なエリアに限られ全域までできない。また、セレ以降の練習会で使用するために全域を調査する重要性も義務もない。従来は不足する資金に幹事会決裁の20万円を宛てていたが十分ではなく、総会決裁をするには準備期間が短く、臨時総会を開く手間に見合わない。そのため、大規模地図修正予算として通常予算に含めるか、幹事会決裁でテレイン修正予算に限って50万円まで認める、などとできないだろうか。

石川:もともと日本学連の予算の中に地図作成費という項目がある。過去の予算や決算では、山川さんの提言などによってかなり変動している。会計担当者としては、翌年度のテレイン開発の見込みを把握できない中で、昨年度の予算作成時にどのくらいの金額を地図作成費に充ててよいかわからない。近年は関東学連セレなどに使われる以外に用途がない。この地図作成費を地図修正費として当てればよいと思う。そのため、セレの実行委員会などと相談していければよいと思う。

坂野:関東学連セレの運営者もどの程度の地図修正が必要かは試走等の段階でしか分からず、議論できるタイミングで幹事会が開催されない場合がある。できるだけ幹事会のタイミングで相談や報告があればよいと思う。

石川: あらかじめ地図修正費の見積金額を予算の段階で提示いただいて、毎年のセレ用の地図修正を目的として明記して予算に組み込み、その予算が承認されれば、承認後の予算外の支出とはならず、逐次幹事会や総会の承認を得る必要はない。そのため、予算の段階で協議できれば良い。

坂野: 日本学連の全テレインを5-10年くらいかけて修正していくイメージであり、常に使えるテレインを維持していければよいと思う。

3. 日本学連HPの改修について(西澤)

概要

現在の日本学連のHPは非常に古い基盤で運営されている。HP自体が約20年前に作られたもので、httpのままである。そのため、保護されていない通信と表示される。最近では、iPhoneの最新のOSではHPが開けない、HP管理側では管理者権限が付与されるメールが届かないなどの多くの問題がある。数年前からHPを新しくしようという議論は上がってはいますが、実現には至っていない。そこで、HP刷新委員会の鈴木璃土さんの協力をもらいながら、HPを新しくしようと考えている。

今の日本学連のHPはorienteeering.comの下に、日本学連と各地区学連のHPがぶら下がっているような状態である。新しくHPを立ち上げるにあたって、このような複数のHPをまとめるシステムのサービスが見当たらないことが現状である。

今考えられる案として、

- ①各地区学連と日本学連のHPをそれぞれ独立させる
 - ②今のHPのようにまとめる
- の2点がある。

そこで、各地区学連、技術委員会の方に各地区学連のHPの更新頻度はどのくらいか、独立させた場合管理体制が引けるのか、規約置き場としての要素が強いのなら、日学HPに各地区学連のページを置くだけでも良いかななどをヒアリングしたい。また、予算に関しては、ランニングコストとして毎年多くて数万円程度である。毎年この程度の金額を予算として出せるかどうかヒアリングしたい。

ヒアリング

美濃部: 関東学連は規約置き場としての役割が強い。更新は年4回、議事録を上げるくらい。

祝部: 北信越学連はHPはあまり動かしていない。幹事長によっては、セレ通過者の名前を掲載する場合もある。

柿本: 関西学連は総会の議事録発行、年2回発行の広報誌を掲載している。更新頻度は年10回以下。

井上: 中九四はHPが存在しない。

屋敷: 技術委員会はHPに関して引継ぎ等が行われておらず、動かしていない。

西澤: 更新時に各学連から日学広報部に更新依頼を出す、という形でも大丈夫という認識でよさそう。

石川: 日本学連は現在毎年黒字であるため、数万円程度なら出せる。

西澤: 今後の流れとしては、今回のヒアリング内容をもとに鈴木璃土さんと再度議論し、7月を目途に方針を練っていく。

4. 下絵地図とサンプルコースの公開について(浴本)

概要

テレインを使用したい団体から日本学連に申請→日本学連(坂野さん)から下絵の提供があって、初めてクラブは下絵を見られる。規模の大きなテレインは当然下絵をもっているであろうが、小さなクラブはそういうノウハウの蓄積がないため、練習会を開催しづらいという課題がある。

変更

下絵(最近のocadファイル) & サンプルコースを事前公開し、jpegは容量がでかいので、ocadファイルにする予定。サンプルコースはコース設定者の合意も取りつつ、適宜進めていく予定。インカレのコースは早めにのせる。

→各団体は下絵を見て、テレイン利用申請をすることができる。

坂野: 勝手に地図を印刷し、テレインを利用してしまう恐れがあるが、現状オリエンテーリングの地図はXなどで見られてしまう。公開によってオリエンテーリング界隈への貢献ができる。

質問

早川: 旧図は下絵地図を公開するのか、それともコース図を公開するのか。

坂野: コース図、下絵地図どちらも公開したい。ocadファイルをサンプルに置くことを考えている。一度公開して反応を見たい。

浴本: コースはあるものすべてを公開するのか。

坂野: 特に良いコースを公開していきたい。非公開の練習会もあると思うが、インカレのコース等は公開してしまっていないのではないかと。現在申請があつてから送っているものをあらかじめ公開することで、練習会を開きやすく、質の高い練習会を開催しやすいようにしたい。

石川: どういった形で地図やコースを公開するのか、大会や練習会後にコースを公開するまでのフローについて、坂野さんの認識を聞きたい。

坂野: グーグルドライブに主にファイルをアップロードしたい。大会や練習会のコースは緊急連絡先を消すなど調整が必要になるので、学連か坂野さんでチェックしてから掲載することにする。利用者から各自でアップしてもらうという形ではない。

5. 栃木テレイン(旧図)の公開について(浴本)

概要

1979年の日本学連発足当時から学生オリエンテーリング界の発展に貢献してきた山川さんの体調状態が芳しくない。

日学テレインの地図はほとんど最新状態にアップデートされており、山川さんが描かれた地図が過去のものとなってしまっている。しかし、日本の地図作製技術の発展を語る上で、山川さんが作成した当時の地図を残しておくことは大変重要であると考え。そのため、著作権を有している日本学連のHPにて、山川さんが作成した旧図を公開したい。

公表までのフロー

- ①浴本が山川さんの旧図をもっていそうな人に片っ端から声をかける＆Xでもデータを集める依頼を流す(7月中)。
- ②広報部にデータを渡して、掲載を依頼。掲載場所は「テレイン利用」のページを想定(8月中の公開を目指す)。

6. インカレ地区学連枠配分数の継続的な周知について(浴本)

概要

インカレの枠配分のルールを言葉で説明することは大事だが、とはいえ言葉だけで説明されても理解しづらいのが現状である。

インカレの男子60名の枠配分方法をざっくりと説明すると、男子60名のうち、ランキング上位8名は内定、各地区2枠の計12枠、残り40枠は、日本ランキングで、上位8名と昨年度入賞者を除いた上位40名から決められる。

※ランキング上位8名と、昨年度入賞者が重複した場合は、重複した分だけ、内定者の繰り上げ選出を行う。

※女子は男子の半分の枠数

学生が一番知りたいのは、ランキング内定者が誰で、各地区に何枠あるかということだと思うので、ランキングが更新されるたびに以下の写真の感じで広報したいと思っている。

・資料準備は技術委員会(1回パワポで作ればそんな大きく変わることはないだろうからそんな手間ではないはず)

今回相談したいこと

- ・ランキングが更新されるたびにこれをXで周知することについてどう思うか(マイユニバスまではなくていいと思う)
- ・こんな項目も周知してほしいなどあれば

質問

屋敷: 学生が気になるのは各学連が今何枠あるかであると思うので良いと思う。技術委員として作成していきたい。

7. インカレ実行委員会でのOCADライセンス購入について(浴本)

概要

インカレ実行委員会のコースプランナーがocadをどうするかは年による、実行委員会で購入した年もあれば、所属する地域クラブで所有するocadライセンスを購入したこともある。3年契約のほうが単価が安いのだが、ocadを全然使わなくていい年もある。そうなると、払った費用が無駄になってしまうので、1年単位で購入することとしたい。

・会計としては、実行委員会のほうから拠出する予定。

・1年単位で購入する場合、2つのインカレで使えることになる。その間の引継ぎは日学理事の浴本が管理する予定である。

ocadライセンスの購入を3年単位ではなく、1年単位でよいか。

質問

坂野:ライセンスは何個購入する予定なのか。

浴本:2つのライセンスを購入予定、各コースプランナーが利用する。

坂野:インカレ用のみでなく、日本学連として購入すれば、学連合宿の運営などに貸すこともできると思う。

木村:実行委員会の予算でライセンスを用意するのがシンプルではないか。

浴本:今後、日学として使用予定があるならば多めに日学で購入し、その一部をインカレ実行委員会がに使わせていただくという可能性もあるが、今のところ日学として使用予定はないそうなので、今回は実行委員会でocadライセンスを1年単位で購入したい(特段反対なし)。

8.地区学連のUNIVAS整備について(石川)

概要

UNIVASの各地区学連の組織には、既に渉外ではない昔の部員が多く混じっており、かつ現在の渉外担当者が十分に追加されていない。渉外のみ流す連絡を、わざわざ加盟員全体向けに流さないといけなくなっている。

理想としては、渉外担当者のみに流す連絡と、全体向け連絡を切り分けて情報周知を最適化する。

各地区学連にお願いしたいこと:

- ①既に渉外ではないメンバーを削除し、今の渉外担当者を招待する
- ②各加盟校においても卒業した部員の卒業生登録をしてもらうように呼びかける

9.補完点が導入された場合のインカレ枠配分への影響について(屋敷)

概要

今年度インカレから日本ランキングによる枠配分制度が開始された。Road to インカレ〇〇の順位が枠数に直結し、Road toには年齢別ランキングを採用している。

また、ランキングの仕組みに関してJOAのアルゴリズムをそのまま受け入れることで初期費用のみで使わせてもらっている(昨年度第一回臨時総会で可決)。

以下JOA全日本委員会からの連絡があった。(5/22)

年齢別ランキングの補完点について

・一度議案は取り下げましたが、来期の全日本大会に採用するためには6/3までの議案提出があります。(6/7の理事会で臨時で議論を行います)

・全日本委員会で検討の上、再度下記の形で議案を提出したいと考えております。

【旧案】ただし、年齢別ランキングにおいては、獲得点がある大会が3つに満たない選手に対し、(今までの獲得点の最低点 - 100)点を1大会分のみ仮想的に獲得したものとみなして計算し順位付けを行う。

【新案】(今までの獲得点の平均点 - 200)

説明会の反応を受けて上記の通り変更。

※本件は全日本委員会としてはそもそも救済方法を検討しているだけなのであまり検討リソースを割きたくないです。ここに議論が集中すること自体がふさわしくないと考えています。(もっと大切なことをたくさん説明会で話したのに、ここばかり注目されたのが不本

意です。)ただ、年齢別ランキング全体に波及する話なので、それによってランキングの権威が下がらないようには配慮したいとは考えています。

日本ランキング規則(変更後)

https://www.orienteering.or.jp/archive/rule/rule_japan_ranking_20250607.pdf

相談内容

今年度秋インカレに関してさくらんぼ大会にてダウンヒルミドルM20Aクラスにて全日本ロングM21E優勝者を上回るような点数の選手が現れた。また、補完点に関する周知がほとんど広まっていない。全日本のための制度であるが、秋インカレが最初の適用例となる。

→補完点の適用を秋インカレ集計後に延期してもらうお願いをJOA全日本委員にするかどうか。

ただ、補完点の制度に関してはJOAが決めた制度であり、それに追従することは昨年の総会で採決で決定している。一般論として実力以上の点数が跳ねるリスクもある程度許容して採用している。個人の意見では、周知を進める事で今年は進めたい。

10.講習会について(森)

概要

2年前に講習会として各大学1人ずつ出してもらい、何かしらのテーマに関して講習会を行いたいと考えていた。今年は、事業部としてなにかしらの講習会を対面で開催できないかと考えている。交通費は支給しようと考えている。

意見

井上: 中九四は地理的条件もあり他大との交流機会があるのは良い。予算の都合もあるが、1人より複数人の方が参加しやすいのではないかなと思う。

柿本: 交流の機会としてはありがたい。自由参加だと参加者は少ないかもしれない。

西澤: 参加必須であれば誰かしら参加すると思うが、内容次第で興味の持ち方は変わる。

11.後援した大会の要項の収集と要項・報告書の活用について(石川)

概要

日本学連の後援に関する規定によると、事務局に最新の要項を提出し、大会後は報告書を提出しなければならないとなっている。現状としては、報告書の収集は行っているが、要項の収集は行っていない。現在ではJapan-O-entrY等で最新の要項が自由に閲覧できる。今後、要項の収集が必要か、要項や報告書を収集するメリットはあるか意見を聞きたい。

質問

木村: 日本学連会員以外から後援申請をもらった場合は、信頼性の観点から要項や報告書も収集する必要があると考える。

石川: 現状、加盟校が主催団体に含まれない大会からの後援申請は来ていない。この件については次回の幹事会で本格的に検討する。

12.部局報告

概要

詳細は資料を参照のこと

幹事長

石川: 日本学連合宿は2月に関東で実施することは確定させたい。関西に関しては時期に候補がない、運営ができるかどうかという懸念点がある。

屋敷: 12月は候補がない、1月は多忙であるため、日程がないと思う、また、猟期であまり候補となるテレインがない。

坂野: NishiPROさんに話を聞いてみるのはどうか。

石川: NishiPROさんに一度話を聞くのが良い。

渉外部

坂野: コース解説やlivelox等の掲載依頼については自分に聞いてもらえればOKを出す。渉外事例の共有に関しては自分が確認後、重要度に応じて普及部に展開していく。